



3月19日に活動報告とシンポジウムを行った福島県男女共生センターにて

仲間とともに
その36

かーちゃんの力・
プロジェクト協議会

略して「かープロ」

「食と農」で人がつながる活動を展開する「かープロ」は、被災したあぶくま地域の女性農業者が手を携えて運営しています。困難に立ち向かい前を向く姿に、避難先の地元や県の内外から、共感と支援が寄せられてきました。「この仕事があるから、仮設住宅でも朝を楽しみにしてこれました」と菅野利子さん(草野)。共に畑を耕してきた福島市松川町の長沢トモ子さんも「出会えてお手伝いもできてうれしい」と笑顔を見せます。「かープロ」はこの春、自律と自立を志し、NPO法人として再スタートを切るといっています。

活動データ

- 福島市松川町の「あぶくま茶屋」を拠点に活動しています。
- 本年度は福島県農業賞(9月)、農山漁村女性・シニア活動表彰(2月)、ふくしま産業賞(2月)など受賞が続きました。

表紙 紅茶「いいたてまていないちばん」
村産夏イチゴを使ったフレーバーボードティー。香り高い新作のお披露目です。記事はP.30に。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



赤ちゃん訪問時の贈り物から。各方面の協力も得て、子どもの未来を応援しています



生後約2週間の奏多くん

24時間共に向き合うことでさまざまな思いを共有でき、制度の意味を実感。皆様の「配慮」に感謝しています
(妻の直子ちゃん)

悩みや大変さを一緒に味あえたことが良かった。経験してみないと分からないことばかり。この経験を仕事にも生かしていきます。(泉谷さん)

子どもは村の宝物。村には、その健全やかな成長を願うさまざまな事業があります。夫婦が親として共に成長できるよう工夫を凝らした「父子手帳」の交付、赤ちゃん訪問などで木製おもちゃや絵本を贈るウッド&ブックスタート事業、避難先での子育て支援センター開設など。村のまていな子育てが、避難解除後の未来にもつながるよう、取り組みを続けていきます。

村役場の
いいたてパパクオータ制度
村役場の男性職員が、配偶者の出産に合わせて1か月、研修として育児に取り組みむ特別休暇制度です。村は、この2月に長男が誕生した県の応援職員で生活支援係の泉谷徹さんに制度の利用を勧め、困難な時期にも子育てを役場全体で大切にする村の気風を改めて確認しました。

いいたてらしい「まていな子育て」を